

# 高齢者の安定居住に向けた効果的な住宅バリアフリー改修のナレッジベース作成



住宅研究部 住宅性能研究官 (博士(工学)) 長谷川 洋

(キーワード) 高齢者、住宅バリアフリー改修、計画手法、改修効果、ナレッジベース

## 1. はじめに

超高齢社会の到来を迎える中で、高齢者が住み慣れた自宅に住み続けるためには、バリアフリー化等の住宅改修が必要となる。介護保険制度の創設以降、バリアフリー改修自体は一般化しつつあるが、建築の専門家とケアの専門家が連携した適切な住宅改修は十分に普及しているとは言い難い。

このため、高齢者の多様な心身特性や計画条件に応じた住宅の改修手法についての調査研究を実施し、効果的な住宅バリアフリー改修の計画技術情報についてのナレッジベースを作成した。

## 2. バリアフリー改修の進め方の標準化

効果的なバリアフリー改修に向けては、図に示す視点での進め方が望ましい。建築士とケアの専門家の連携により、対象者及び住宅のアセスメントを的確に行い、必要条件を踏まえた計画が必要である。また、改修実施後及び一定期間経過後には、改修効果(本人及び介助者等を対象)の評価が必要である。

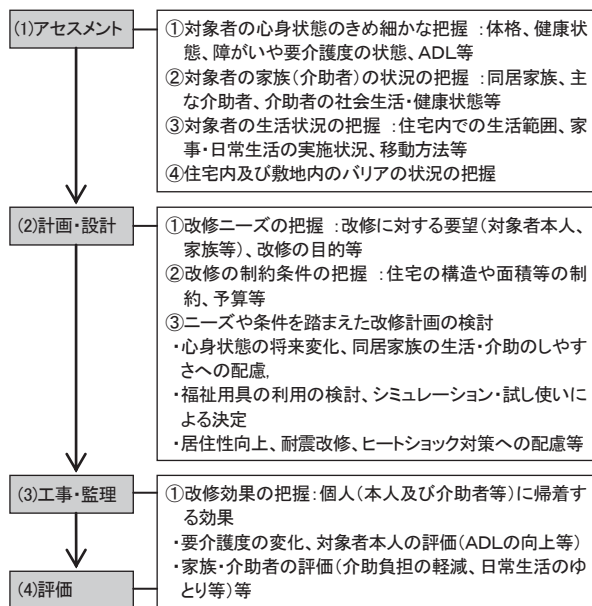
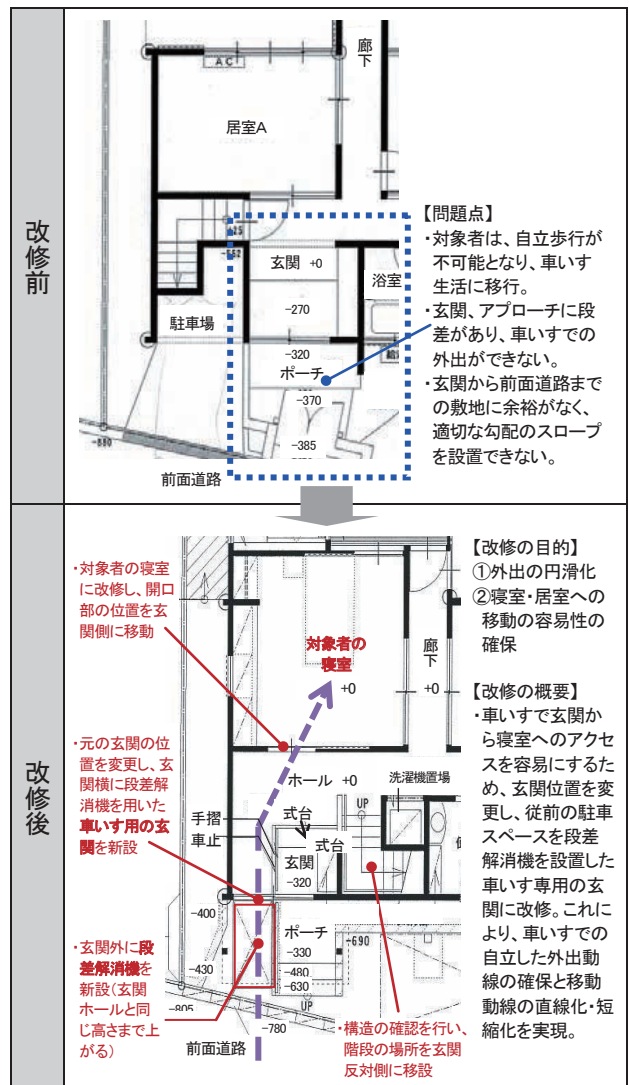


図 バリアフリー改修の進め方と視点

## 3. 住宅バリアフリー改修のナレッジベース作成

建築とケアの専門家が連携したバリアフリー改修事例(31事例)の計画プロセス及び改修効果に関する調査を行い、効果的な住宅バリアフリー改修に係る技術情報としてナレッジベースを作成した(表)。

表 ナレッジベースの作成例(基本動作・空間別)



## 4. 成果の公表及び普及

成果は、国総研資料として公表するとともに、事業者向けの講習会の開催等を通じて普及を図る。